



藤井 秀延

FUJII Hidenobu

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング
社長

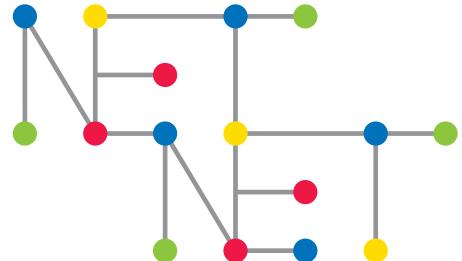
今日的課題に いかに取り組むか

懸念された消費税引上げに伴う個人消費の落ち込みも想定内にとどまっており、景気は回復トレンドを維持しているようです。厳しい状況が続いた関西も、いわゆるアベノミクス効果による株高や円安がじわりと効いてきて、明るい兆しが見えてきたように感じます。

一方で中長期的視点に立つと、浮かぶ課題は少なくありません。いまだ道半ばの東日本大震災からの復興。エネルギー・環境の問題、少子高齢化と社会保障の問題。あるいはTPPを含む経済連携、そして安全保障問題…。容易には解決しがたい、複雑で高度な課題が山積しています。

こうした課題の解決には、より広く、大きな視野を持って問題の本質を見極める、産学官の多様なステークホルダーの協働・連携により知恵を結集する、中央・政策レベルの議論に終始するだけでなく、地域・現場レベルで具体的な行動を起こす、といったことが重要であると考えています。当社は、シンクタンクの中では唯一、東京・名古屋・大阪それぞれに事業所を構え、フルラインの業務を地域密着型で展開しています。ここでは当社の強み・特長を生かした今日的課題への取り組みについてご紹介したいと思います。

まず一つめは、兵庫県立人と自然の博物館、NPO法人の西日本自然史系博物館ネットワークとの共催で2011年から開催している「生物多様性協働フォーラム」。2010年のCOP10(生物多様性条約締結国会議)の名古屋開催をきっかけに、関西からも生物多様性の保全と持続可能な社会づくりの機運を盛り上げようと立ち上げたものです。昨年12月に京都で開催した第7回フォーラムでは、「いのちにぎやか、文化ゆたか。」とのテーマを掲げ、生物多様性の保全につながる地域活動の紹介やパネルディスカッションを通じて、文化



にかかる生物多様性の価値を発信しました。

関西には豊かな自然と文化的な蓄積があり、環境問題を考えるには非常によい地域です。琵琶湖ひとつをとっても、「関西の水がめ」として、その生態系の保存や水質の浄化は、滋賀県にとどまる問題ではありません。環境保全の取り組みは、府県あるいは行政・企業・個人といった枠組みを超えた新たな連携を必要とします。地域のアクター皆が思いを一つにし、協働する。時代にかなった取り組みとして、今後も関西からしっかり発信していきたい活動です。

もう一つ紹介したいのが、昨年から始めた「ソーシャルビジネス支援プログラム」。ここ数年、社会貢献活動に取り組むNPOや個人がずいぶん増えてきました。このプログラムの特徴は、各団体の志や事業性に加え、当社役職員による「共感」という観点で支援先団体を選び、主にプロボノ活動、すなわち当社の社員による知識や知見の無償提供を通じて支援を行うという点にあります。昨年度は鳥獣害対策による里山保全活動や、日本初の難民起業家向けのファイナンス事業に対し支援を提供しました。

もちろん資金援助も大切ですが、「信頼」をベースとした知的価値の提供による貢献、これこそが今の社会に強く求められているように感じます。

当社の役割は、さまざまな価値観をもったアクター間の核となり、ネットワークを作ることです。これは関経連の活動や役割と相通ずるものだと思います。関経連の活動を通じて、日ごろからネットワークを築き、皆で関西が抱える課題を一つひとつ解決しながら地域経済の発展に貢献していきたいと考えています。

(談)